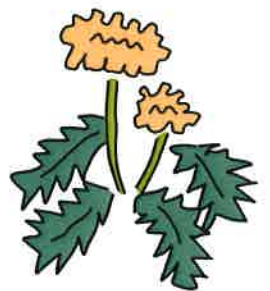




No. 202  
 H16年4月1日  
 一 発行 一  
 〒869-1217  
 熊本県菊池郡  
 大津町森 54-2  
 社会福祉法人  
 三気の会  
 三気の里  
 ☎096-293-8100



新(あらた)

施設長 松田 健

二〇〇四年三月二十二日、グループホーム「あらた」は開所しま

した。構想五年にしてようやく実現しました。多くの人に支えられました。土地の取得ひとつにして地域在住の理事の方から自宅隣を信じられないような安値で譲っていたいただきました。地域住民の方からも反対一つなく歓迎してもらいました。住民が増えるからもって来て下さい。」との言葉までいただきました。先述の理事のお陰だと思えます。

棟上げ時の餅投げでは地域の方が多数こられました。あるご老人が「これだけ盛大な餅投げは何十年振りだろうか。」と感慨深げに言われました。

地域の方を招いての新築祝いでは、地域の方、三気の会スタッフ、利用者の家族を合わせ五十名以上にお越しいただきました。

開所前の準備や駐車場の整備などでも何度もスタッフは足を運び

ました。これらはほんの一例です。紙面をお借りして感謝申し上げます。一つひとつを大切にしていきたいと思えます。

入居を希望する利用者は多くいます。しかし、家族で賛成される方はほとんどいませんでした。肯定的な家族も失敗した場合は戻ってこれるのか、最初に出て行くのは不安であるといった考えがありました。決断するにはかなりの勇氣が必要だったと思えます。

最重度の自閉症者三名、身体障害との合併の知的障害者一名の方が入居することになりました。全員判定1です。市町村役場の方が「大丈夫ですか。」と電話をかけてこられました。三名の世話人を配置することを伝えると安心されたようです。重度の方にこそグループホームは最適な場所になると思えます。しかし、スタッフ配置は必要です。逆に言うと、人的配置によって可能性は膨らんでいきます。ただし、現状の支援費では赤字です。更に、カットしようとする動きも毎年予想できます。重度の方が地域で暮らすことを阻害する要因にならないことを願っています。ホームヘルプサービス利用も厳しくなり、いつのまにか短期入所利用も特別な場合といった制限を加えるのは如何なものでしょうか。

地域生活援助事業(グループホーム)は、ホームヘルプサービス、デイサービス、ショートステイ、通所による施設利用など豊富なサービスを受けられることにより、より充実した生活を送ることが可能になると考えます。また、重度の方も安心して選択できるように重要な要素であると考えます。

近年、グループホーム入居者の痴呆やうつ傾向が顕著になる事例が報告されています。グループホームは、「小さな施設」とも言われています。かわる世話人が固定されていることにより、施設よりも閉鎖的になる可能性を孕んでいます。入居者が寂しがり、施設に戻りたいと訴える方もいるよう

です。バックアップ施設として入居者をサポートするために、定期的なカウセリング、就労へのコーディネート、地域交流への援助、健康面のケアなどを行ないます。ボランティアとして三気の里スタッフの実質的な支援、介護も必要です。生活を単調なものにせず、気分転換を図るためにも定期的なショートステイ利用などはバックアップ施設として必要だと考えます。グループホームでの生活が唯一のものであるという固定的な考えによって他では生活できないような柔軟性、多様性に欠けた人にはなっ

てほしくありません。グループホームはあくまで通過点であると考えからず。

グループホームでは、陶器のお茶碗でご飯を食べています。テーブルクロスの上に花が飾ってあります。当たり前ですが、どれも新鮮に感じています。入所施設での生活に疑問を感じなくなっている施設職員の一人である私は猛省すべきです。グループホームで学んだことは入所利用者にも必ず還元していきたいと強く思っています。(いつでも遊びに来て下さい。お待ちしております。)

---

# 班ニュース

## 1 班・一年間、お疲れ様でした

3 月に入り、春風の心地よい季節になりました。世間では卒業シーズン真っ盛りで、私達もこの季節になると一年の節目を感じます。先日まで、園内でインフルエンザが大流行し、静養していた方も多く、班での活動がなかなか出来ませんでした。しかし、ようやくインフルエンザも沈静化し班での活動も軌道に乗り出しています。さてそんな中、私たち一班は、今年度最後のレクリエーションへ出掛けました。今回は最後ということもあり、保護者の方にも参加して頂き、皆の一年の労を労い食事会(昼食)をしました。10月に行われた宿泊レクリエーション以来の保護者参加のレクリエーションで、なんだか皆ソワソワ、ワクワク…。食後には皆でカラオケ大会と大盛況でした。レクリエーション終了後に、「普段家では食べていない物も全部食べていました。」とお母さんの嬉しい声を聞くことが出来、園での指導が浸透している事を実感しました。その反面、まだまだ取り組まなければいけないなと感じる場面もありました。もうすぐ新年度に入りますが、やり残した課題をクリア出来るよう根気強く取り組んでいこうと思います。皆、来年度も頑張ろうねー！

宮原

## 2 班・宿泊レクリエーション 福岡、佐賀の旅

2 班のメンバーが待ちに待った宿泊レクリエーション。3月5日、6日の1泊2日で福岡、佐賀方面に行ってきました。豪華な食事、綺麗な景色を満喫し利用者、保護者、スタッフ全員が楽しめた旅行だったと思います。年度末の3月の宿泊レクリエーションという事もあり、班のメンバーの団結力がうかがえました。昨年4月から、2班のメンバーは楽しいときも苦しい事も一緒に頑張ってきました。その成果は、私たちスタッフが考えているものより凄いものでした。団体行動の難しさを感じさせない成長ぶりには、感動しました。この宿泊レクリエーションで2班のメンバーに毎日の積み重ねの大切さを教えて頂きました。今の2班なら何処にでも行けるような感じさえします！

来年度も皆さんと一緒に学びながら頑張っていきたいと思っています。

山部

## 3 班・インフルエンザ大流行の影響

インフルエンザが園内で大流行して2週間ほど作業が休みとなりました。その間、畑の作物にも温室の草花にも充分にかまっていあげることが出来ませんでした。しかし、野菜も植物も生き物。驚くほど大きく成長していたものもあれば無残に枯れていた物もあり、休み明けの作業は大変でした。この事を教訓に、休んだ分の愛情をたっぷり注ぎ、野菜や植物作りに励んでいます。

インフルエンザの影響と言えばもう一つ。延期になっていたレクリエーションです。3月に日を改め、家族の方との食事会を行いました。そこで家族の方より「一気にではなく、ゆっくり食べる事が出来ていてビックリした。」「家では食べないものも食べていた。」等の感想を頂きました。一年間の成果が見られたことで、また頑張ろうと気合を新たにしたい一日でした。

菊池

## 通所・通所部一行、沖縄へ空の旅

3月3日～5日までの2泊3日、今年度最後のレクリエーションとして、沖縄旅行へ行ってきました。今回は、仲間7名とスタッフ3名、総勢10名での旅行を経験しました。初めて飛行機を体験する事になった赤星君と春野君を前に、緊張していたのはスタッフの方だったようで、飛び立つ時にこそ固まっていたものの、飛んでしまえば二人とも余裕で窓の外を見ていました。沖縄滞在中は、市場に行くと豚の顔にビックリしたり、エイサー踊りでは一緒に楽しんだりもしました。宿泊先である海辺のリッチなホテルでは、イタリアンのコース料理や琉球料理も堪能しました。元々、偏食のある利用者もいましたが、皆少しずつではありますが、全種類の料理を食べることができ、今年度の成果を見る場面となりました。今年も一年間、色々な事がありましたが、このような旅行に出かけた時にこそ、日常の結果が見えるような気がしました。また、今年見えた課題を来年に繋げて行きたいと思います。そして何より、山内君が就職できた事は、通所部の皆にとっても三気の里のスタッフにとっても最大の喜びでした。色んな意味で、第二の山内君を目指してまた頑張っていきたいと思います。

伊豆野

## さんサン工房・「食事会」

先日、さんサン工房のメンバーで一年の労をねぎらい「食事会」を行ないました。毎月の給料を積み立てて、リッチな食事会に行こうと皆で計画を立て楽しみにしていました。当日は朝からカラオケで自慢ののどを披露してくれた橋村さん・楢木さん「ウルトラセブン」を歌った森川さん。それぞれ好きな歌を披露してくれ盛り上がりました。

食事会では一応奮発してコース料理!!最初にオードブル、次に魚、サラダ、ステーキ、デザートにコーヒーと次々と美味しいメニューに舌鼓をうち、福嶋さん、坂本さん、松村さんも大満足でした。最後に白水村の“瑠璃温泉”にのんびりとつかり、頭からつま先までピッカピカになりました。

また次の日からは、下請け作業に忙しく追われる毎日ですが、リフレッシュした皆の働く顔は生き生きとしていました

中牟田

## 4班・はるのたより

日に日に日差しが暖かくなり、白蓮がぼこぼここと白い大きな花を開き始めました。桜にはまだまだ早いのですが、この白蓮の花を見ると、春が来たなあと思います。こんな風にかくと、私がいかに花に詳しくありますが…、実は神沢さんの受け売りです。神沢さんはとても草花に詳しくて、どこに行っても花を見て楽しみ、私たちにもたくさん花の名前を教えてください。そんな神沢さんが、はがきを漉くと、なんとも優しい花の色をイメージさせるのはがきになります。今の時期はなんといっても桜色。はがきの中に花びらを漉きこんだかのような色。そして菜の花の色。一面の菜の花が春風に揺れているような色。神沢さんが、たくさん花の咲く春を心待ちにしているのがよく分かります。皆さん、神沢さんの漉いた春色のはがきで、誰かにおたよりしてみませんか？きっと、優しい気持ちがつたわりますよ…。

平川

## 療育雑記

『行動について考える』

### ⑧ 動作

木下 昭二

これまで「行動について考える」としてシリーズ化してお伝えしてきましたが、今回はそうした行動について三気の里ではどう捉え、どう対応しているのか”その1つを紹介していきたいと思えます。これまでの療育雑記シリーズの中でも何度となく言葉として出てきていますが、三気の里ではパニックの対応時等に於いて「寝かせ」という支援方法を用いて対処することがあります。これはご存知方の多いかもしれませんが、動作法と言われる技法の中の一つなのですが、今回はその「動作法とは何たるや」を紙面の許す範囲で紐解いて見たいと思います。

まず動作法とは、脳性麻痺児の動作不自由の改善を目的として開発されてきた動作訓練を、他の障害児・者に適応する場合の方法を理論として指している言葉として用いられています。すなわち、具体的な特定の動作を課題として与え、それを適切に遂行するように

対象者に努力させることで、その特定の動作の制御がなされ対象者の障害の特徴が変化するよう対象者の自己制御を促す援助方法である。とされています。これだけでは難しすぎてよく解らないので、解りやすく説明すると、心とからだの動きが合致していない為に、自分のからだ(手や足、頭や胴体)でありながらバラバラの動きをしてしまっている状態。自分で自分のからだをコントロールすることが出来ない(三気の里では動作の自己コントロールが出来ていないと表現している)状態に陥ってしまうと、常同行動や多動で同じ動きを延々と続けたり、ウロウロと動き回っている場合でも、本人の意思とは無関係に行われている場合があり、本人は止めたくても止められない、止める方法・手段を身につけておらずひたすら動いているといった事が見られます。また、そういった行動特徴を見せる自閉症児・者の場合からだの特定の場所に過度の緊張が見られたり、不当緊張が見られたりする場合があり、本人は長年そういった姿勢を保っていることで、その姿勢や

緊張の入った状態が当たり前になってしまい、容易に力を抜いたり必要な部位に力を入れたりする事がとても困難になってきます。そういった状態の時に、動作法による支援を行なうことによって、自分の手や足、頭や胴体など、自分のからだとしての動きを意識出来るようになることで(そこまで至るには容易なことではありませんが、繰り返し繰り返し行うことで必ず効果は見えてきます)先に挙げた常同行動や多動状態を止めたりする場合でも、声かけや少しの動作援助によって止められることが出来るようになったりします。また、その支援のやり取りの中で、深呼吸を行うなど、呼吸を整えたり、同時に緊張の見られる部位に關して力を抜くような働きかけをしていくことで、パニック時に短時間で通常の落ち着きを取り戻しやすくなったりする等の効果も見られるようになります。スタッフの声が雑音としてではなく、支援として聞き入れられるようになることで、作業場面や生活場面での支援に於いてもスムーズな動きに繋がったりすることも見られてきます。

以下は動作法の技法の一つ、腕上げコントロール法について、簡単ではありますが紹介します。

〔腕上げコントロール法〕

による支援)

対象者を仰臥位(あおむけ)に寝せた(自閉症者の場合、仰向けに寝せるだけでも大変と言われる方もいらっしゃるかもしれませんが)状態で、手は体側に置きます。支援者は横(肩付近)に座位し、手首と肘のやや上の辺りを手のひらで包み込むように持ちます。その持つ時の指先に力が入り過ぎたりすると、対象者は不快感の方が強くなり、課題に集中出来なくなってしまうので注意が必要です。どの支援の時も同じですが始まりと終わりははっきりと伝えるようにします。動き始めたからトレーナーの意図に合わせて動かせるようにスピードをある程度コントロールしながら支援します。動かして(上げて)行く中で、腕と一緒に肩が動かないように適度な力で援助します。45度付近まで上がってきたら肘が曲がらないように持ち、手のひらから手首付近がからだの中心線に近いところを通るように心がけて支

援を進めていきます。90度付近から以降は特にスムーズに動かしにくい場合や不当緊張が入りやすい場合が多いので、ゆっくりと動かしながら硬い部位やスムーズに動かない所、緊張が見られた場合は、一旦動きを止めて少し戻して待ち、再度ゆっくりと声をかけながら動かす等のやり取りを繰り返すことでスムーズに上げられるように支援していきます。上まで上げるこ

とが出来た場合は「上に着いたよ、よく出来たね」等声をかけて褒め、また始まりの声かけをして、上げた時と同じようなやり取りをしてゆっくりと下ろしていきます。

以上、動作とやり取りを言葉にしてみました。がなかなかその様子・雰囲気は伝わりにくかったかと思えます。三気の里では週に1回金曜日の午後のクラブ活動の時に動作法による支援を行っていただきますので、興味をもたれた方は連絡を頂ければ見学をお受けします。(障害児の発達援助の方法としての動作法：針塚先生発表より一部引用)

#### 大津ジョギングフェスティバル

2月15日(日)に大津の森運動公園にて、大津ジョギングフェスティバルが開催されました。天気にも恵まれ、ジョギング日和でした。三気の里の参加者は、皆さん2kmコースを走りました。スタッフと共に一所懸命に走り、汗を流し、完走しました。事故や怪我も無く無事終了したのですが、今回、本調子ではなかった利用者の方が、翌日より体調を崩し、インフルエンザになりました。今後は前日、当日、後日の体調管理に気を付けていきたいと感じました。 両角

#### 「食堂営業中」

今年の春は、気温の変化が激しく、体調を崩しやすい月になりました。インフルエンザの流行により、感染を防ぐため、マスク、手洗い、うがいを徹底しました。が、看病したり、園内に居ると、いつの間にか、かかってしまったりして大変そうでした。厨房では、通常メニューの他に、軟食、食缶の準備などで、慌ただしくなりましたが、食堂は営業中です 金丸

#### 保護者便り

##### 「振り返って」

園田 しずえ

三気の里へ通い出して早四年目を迎えようとしています。当時、怪我をしたままで(前夜に家庭でドタバタしてガラスを割り)初日から着くなり病院へ連れて行ってもらったのを昨日の事のように思い出します。親が連れて行っても、とうてい出来なかったであろう指の縫合手術を、簡単にすんなりと昌寛に受けさせてもらい「三気の里へ入って良かった」との思いで一杯になりました。が、初めて指の縫合をして、その日に帰り着くと親の目が届かないのをいい事、自分の部屋で糸を取ってしまい、唾然としてしまいました。あれからもう三年経ちますが、未だに忘れられません。

通所二年目頃から、仕事に取り組む事になりスタッフの熱心な指導の元、子供達も各々の持つてい

たずらは相変わらずやっています。以前程のパニックはなくなってきた分、物を破ったり、捨てたり、壊したりする行動が増えた気がします。

元気が取り柄の昌寛ですが、親子共々これからも宜しく願います。

#### 退職にあたって

初めて就職した三気の里で、早四年が経ちました。いろいろなことがありました。泣いて、笑って、時には泥だらけになって働いた四年でした。これからは別の道に進みますが、私にとって一生の宝物です。 上野

8年9ヶ月。本当に多くの方々とのお会いがありました。その出会いから多くの勇気やパワーを貰い、強く支えられてきました。そのような皆さんに対し、これから先、日々模索しながら人生を歩んでいく中で、自分の人生を精一杯生きていく事で、これまでの恩返しをする事ができればと思っております。本当にありがとうございます。

離れても、会えなくても、いつも三気を応援し続けます。長い間、本当にお世話になりました。 麻生

2004年 4月の行事予定

日	月	火	水	木	金	土	備考
㊦清田さん、国本さん、中嶋さん、春野さん、森さん、 宮本さん、誕生日おめでとう㊦ 7日さんサン工房 レク 10日家族会・落成式㊦ 14日3班レク 15日誕生会 22日1班レク 24日帰宅バス㊦				1 就任式	2	3 島原マラ ソン大会	島原マラ ソン大会 (4月3日 ～4日)  春季帰宅 訓練 (4月25日 ～5月9日)
4 清田さんの 誕生日(31) →	5 国本さんの 誕生日(33)	6	7 さんサン工 房レク	8	9	10 家族会 落成式	
11 中嶋さんの 誕生日(36)	12	13 春野さん誕 生日(20)	14 3班レク	15 ㊦誕生会 たんぼぼ編 集	16	17	
18	19 森さんの 誕生日(30)	20	21	22 宮本さんの 誕生日(20) 1班レク	23	24 帰宅バス	
25 春季帰宅訓 練	26	27	28	29	30 →	(5月9日)	

実習ボランティア

今年度の行事だけで言うと、延べ人数で200人を超える多数のボランティアに来ていただくことができました。その中の、3〜4割ほどがリピーターです。本当にありがたいことです。

自閉症の人たちといきなり上手く関わるのは、難しい事ですが、まずはどういう人達か知ってもらおうという意味でもかなりの成果が出た年でした。来年度は、行事だけでなく、レクレーションや日曜(外出)ボランティア等の受け入れにも力を入れ、楽しみながら活動する事で定期的にボランティアに来てくれる人材の育成を図っていければ...と思っています。

ボランティアに興味のある方、自閉症って?と思われる方、動機は何でもかまいません。是非1度三気の里へ来てみてください。決して後悔はさせません。高橋

(ボランティアありがとうございます)  
※生け花

西村 栄子  
敬称略

後援会ありがとうございます

松田 敏子・山室 篤信  
荒牧 貴子・田中 稲男  
長谷川直美・南郷 多津  
※敬称略

後援会募集のご案内

三気の会では、後援会を募集しています。御入会頂いた方には、毎月発行している機関紙「たんぼぼ」をお送り致します。

《振り込み先》  
口座番号..郵便振替

01970・8・14902

社会福祉法人 三気の会 後援会  
住所

熊本県菊池郡大津町森54・2

一口 3千円  
団体は、1万円より

編集後記

たんぼぼ編集は新任スタッフの登竜門。編集長を務めた私も、6年前は戸惑いだらけで、皆の足を引く張ってました。皆、始めは分からない事ばかりで戸惑いますが、きっと大丈夫!...この雰囲気、病み付きになりますよ。藤森